

名古屋地学会例会（特に巡検）への参加のお誘い

村松 憲一

名古屋地学会では例年、総会 1 回と、例会を 5 回開催している。最近では総会は毎年 5 月に名古屋市科学館をお借りして、講演・研究発表を行い、例会は、1 回は講演・研究発表、あと 4 回は巡検（見学旅行）の形で行われることが多い。かつては巡検も 20～30 人の参加者で実施されたが、最近は参加者が 1 桁ということも多い。ご存じのように近年は露頭の見学は開発に伴う改変などでとても難しく、土木工事の時くらいしかない。それも工事のスピードの速さ、工法の変化もあって見学には困難を伴う。そんな中を、担当の委員の方は、資料の準備、現地の下見などをして当日に案内をしてくださる。

参加しにくい原因が何かを調べたわけではないが、日頃の仕事の忙しさ（休日の利用順序としての巡検参加の位置の低さ）、会員の高年齢化とリタイア会員の増加、参加するには敷居が高く感じられるなどが考えられる。その方の持つ休日利用法はご本人に任せるしかない。高年齢化は体力との相談というデメリットともに、時間の自由度の増加というメリットもある。ここでは参加する敷居が高く感じられている人のためにあえて説明しておきたい。例会（巡検）は案内はがきが全会員に配られる。ただあらかじめ出欠を採らない。これは連絡費節減のためである。よく言えば当日の都合（気分？）で参加できる。悪い点では、突然集合場所に行って大丈夫だろうかとか、知らぬメンバーで居心地が悪いのではなかろうかと思われる方が見えるかもしれない。私も最初の頃はちょっぴり不安を持って参加した。現在は常連に近くなり、知人との出会いと知らないところ、しばらく行っていないところを案内してもらえる楽しみが大きい。内容も詳しく知りたい方には詳しく、ほとんど素人という方には親切に教えてもらえる。アットホームな雰囲気、希望すれば予定外コースも案内してもらえる。家族連れも可。途中参加、途中帰宅も可。自家用車でしか行きにくいところもあるが、事前に担当者に相談してもらえば相乗り等調整してもらえと思う。前に述べたように現在はよい露頭を探すのは難しい。それを気楽に案内してもらえるのはすばらしい機会だと考える。ここに、この数年で私の参加した例会（巡検）を紹介することで、その楽しさを知っていただき多くの方に参加をお勧めしたい。



第 256 回例会：岐阜県恵那市笠置山周辺：2004.11.28：

濃飛流紋岩の観察、採集を行う。赤河断層の断層谷（左上：断層は写真のやや左よりの部分を通る）を見学後、濃飛流紋岩の下部層の見学する。沢を登り突堤のさらに上（右上）で、火山活動休止期の水成堆積物（湖成）のアーコーズな砂岩や黒色頁岩の観察を行う。



左：白山町での領家の基盤岩と一志層群家城層礫岩との不整合。

右：貝石山の一志層群



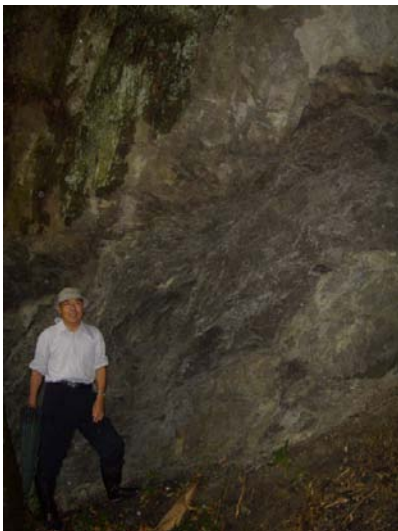
第 257 回例会：三重県一志郡：2005.1.29:

一志層群と小山礫層（東海層群），一志層群と基盤岩の関係を観察した。貝石山（観察のみ）など 3 カ所で貝化石の産状観察し，安子谷などで化石採集。（名古屋地学 67 号参照）



第 263 回例会：新城市設楽町，大島川，鳳来寺自然科学博：2006.2.19：

長篠橋下で，設楽層群田口層の礫岩からカキ化石などを見学採集（左上）。大島川を上流に向かい，大島ダム付近で，火山豆石や黄鉄鉱を含む露頭を見学した。



第 270 回例会：新城市 MLT 長篠露頭等：2007.9.29：

雨天のため，医王寺で横山氏の標本を見せていただいた後，中央構造線の長篠露頭（左：人物は故横山良哲氏）や，黄柳野の採石場跡で蛇紋岩（右上）中のアラレ石などを見学，採集した。



第 271 回例会：田原市吉胡貝塚，蔵王山，高松：2007.11.24：

できたての吉胡貝塚資料館（左上：縄文時代後末期・晩期の貝塚）を見学。貝塚の現場保存展示のさまざまな工夫を見る。蔵王山展望台から地形地質を見学し、渥美半島高松の化石層を見学して、赤羽根町北部で断層鏡肌である光岩（右上）を観察した。



**第 281 回例会：
豊橋市自然史博：
2009.11.21：**

博物館を見学した後、化石研究会の講演を聴く。右は展示されたエディアカラ動物群の復元模型である。



第 272 回例会：愛工大地域防災センター：2008.2.23：

正木先生から地震情報配信システムやセンター建物の免震装置（上）を見せていただく。（名古屋地学 70 号参照）



第 273 回例会：三重県伊勢市矢持町：2008.2.16：

伊勢市南部の秩父帯に分布する石灰岩（河内層）中に多くの鍾乳洞が見られる。鷲嶺水穴（左上）と覆盆子洞（右上）を見学した。前者は走向 N-S の断層による主洞で、樹枝状の支洞も発達する。後者は 120m ほど入ることができ、鍾乳石も見られるそうである。（名古屋地学 70 号参照）



第 276 回例会：新城市阿寺七滝：2008.11.2：

中央構造線長篠露頭と向林露頭，阿寺の七滝（左上），大島ダムでピソライトと黄鉄鉱（右上）を含む露頭をそれぞれ観察する。



第 280 回例会：三重県鈴鹿市御弊川：2009.9.19：

鈴鹿川支流の御弊川川原（左上）で，約 250 万年前の亀山層の総合調査が行われている。動物の足跡化石，タニシやイシガイなどの淡水性貝類，花粉，昆虫，珪藻化石などが産出している。この日は星会員による古地磁気の測定（右上）も行われた。すぐ下位にある御弊川火山灰層は逆極性を示す。



第 283 回例会：田原市（渥美半島）：2010.3.20：

渥美半島に発達する渥美層群を観察した。高松の化石層（左上：豊橋層高松泥質砂部層），西浜田，伊古部で赤沢泥層（右上）とそれにはさまれる火山灰層（AT-3），細谷町の海岸で火山灰層などを観察した。



第 286 回例会：設楽町 領家変成岩と水晶：2010.10.10：

設楽町延坂（左上）と奥段戸（右上）で、領家変成岩（珪質片岩）を観察した。チャートと見間違えるような露头もあった。水晶を含む部分があり、路上に落ちた 1cm 前後の長さの透明できれいな水晶を拾うことができた。



第 288 回例会：岐阜県恵那市岩村・恵那市：2011.2.13：

小里川ダム付近で伊奈川花崗岩，岩村町飯羽間で貝化石を含む岩村層群，岩村上切で、濃飛流紋岩を花崗岩が貫入している境界を観察（左上）。雪の積もる岩村城で石垣の花崗岩を観察した後、恵那の笠岩や蛭川の石切場で苗木花崗岩の観察，赤河断層谷を走り、坂折棚田を見学した。



第 290 回例会：三重県津市美杉町：2011.9.24：

俱留尊山東麓で室生火砕流堆積物の急崖と、崖崩れによって生じたとされる凹地を見学後，大洞山南西麓で室生火砕流堆積物（左上）の観察採集を行う。帰路，美杉村下多気地内で採集された，領家花崗岩の球状花崗岩（右上：美杉村天然記念物）を地元の方に見せていただく。（本号参照）



第 292 回例会：犬山市，岐阜県可児市：2011.12.23：

犬山桃太郎園地で三畳紀の緑灰色～赤色チャートを観察。チャートの開けられた巨大なポットホールも見学。中濃大橋上流で可児層群中村層のシルトや礫質凝灰岩を観察。



第 293 回例会：犬山市，岐阜県可児市：2012.2.19：

各務原市で木曾川泥流を観察（左上）。その下位にある各務ヶ原段丘（中位段丘）構成層中の軽石層を観察（右上）。川原で濃飛流紋岩などの礫を観察。 午後は岐阜市との境界にある権現山（317m）に登り，白色チャートや，美濃帯の褶曲地形を観察した。

以上，各例会で見学できたものの一部を紹介した。地質に関する研究・勉強にはフィールドでの観察が基本である。例会巡検は，とくに若い方達には貴重な観察・見学の機会と考える。多くの方の巡検参加をお勧めしたい。なお，ここに取り上げた写真に写って見える方には掲載のお断りをしていない。お許し願いたい。